

本が教えてくれるもの

「月に1冊も読まない」
大人が6割を超える

令和5年に行われた文化庁の「国語に関する世論調査」において「1か月にどのくらい漫画や雑誌以外の本を読むか(電子書籍を含む)」という質問に対し、62.6%の人が「読まない」と答えていることが分かりました。また「読書量が減っている」と答えた人にその理由を

尋ねると「情報機器(携帯電話・スマートフォン等)で時間が取られる」と答えた人が43.6%で最多となり、過去の調査で割合が多かった「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」(38.9%)を上回っています。(表1)

一方で、本以外の情報(インターネットやSNS)で文字を読む人の割合は年々増加していることから、スマートフォンの普及により紙での情報収集を行う人の割合は減り、電子媒体での情報収集を行う人が増加してきていることが推測できます。

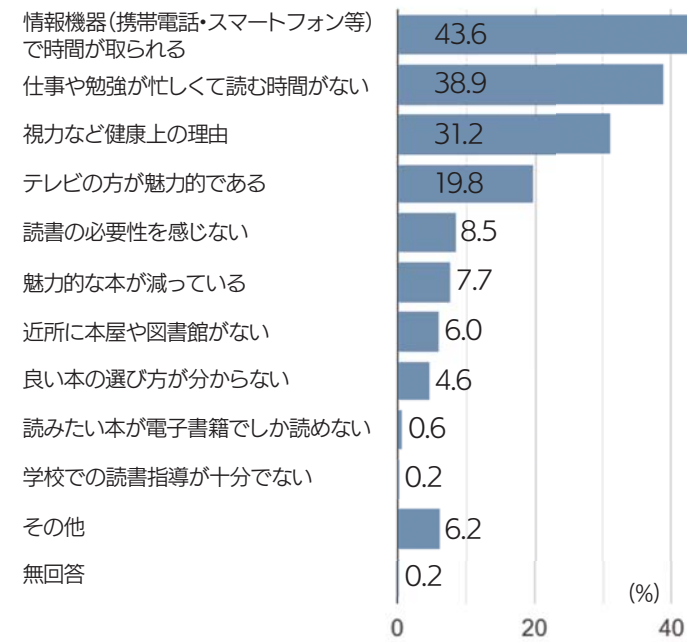
皆さんは、最近本を読んでいますか？スマートフォンが普及した今、インターネットやSNS等で情報を仕入れる人が増えており、全く本を読まない人もいると思います。今回の特集では、本に携わる人をはじめ「本をあまり読まない」人にも話を聞き、読書を通じた発見や魅力を語っていただきました。ゆつくりと本の世界に触れることで人生にささやかな彩りを与えてくれる「読書」。今回の特集を読んだ皆さんが、新たな本に触れるきっかけになれば幸いです。

■ 市学校教育課 ☎0994-31-1137
市生涯学習課 ☎0994-31-1138



～書店で本を選ぶ2人～
社会人硬式テニスでペアを組んでいる長濱さんと瀬戸口さん(P6参照)。お2人には特別企画にご協力をいただきました。
〔撮影協力〕
明林堂書店 鹿屋店
☎0994-43-3983
〒893-0013 鹿屋市札元2丁目3675-48

本が教えてくれるもの

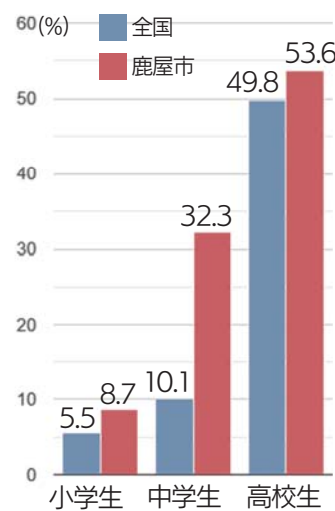


(表1) 文化庁 令和5年度「国語に関する世論調査」
「読書量が減っている」と答えた人のうち
読書量が減っている理由(2つまで回答)

鹿屋市の子どもの傾向と読書推進の取り組み

本市の児童生徒における、家庭での不読率(1か月に本を1冊も読まない児童生徒の割合)は学年が上がるほど上昇する傾向にあり、全国平均と比べ本市の不読率は高い(表2)傾向にあります。

そこで本市では令和4年度、家庭・地域・学校が一体となって乳幼児期から発達段階に応じた読書活動を行えるよう「第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画」を策定し、読書環境づくりを推進しています。主な取り組みとしては①「親と子の20分間読書」運動で親子のふれあ



(表2) 不読率の比較(第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画(令和3年度)・第66回学校読書調査(令和3年度))

いを重視しながら、②発達段階に応じた「おすすめ本リスト」等を作成したり、③「まちなか図書館」の設置や「デジタルKANNOYA」(かのや市電子図書館)でいつでも、どこでも、だれでも気軽に読書を楽しめる環境を整備したりするなどの取り組みを進めています。